



校長室だより

2026年7月6日
丹波市立進修小学校長

「ありがとう」が育てる心の力

7月2日の朝会では、「ありがとうの木」をテーマに子どもたちへ話をしました。

本校では、子どもたちの自己肯定感を高める取組を進めています。その中で見えてきた課題の一つが、「自分は友だちの役に立っている」と感じる子どもが少ないことでした。そこで、企画委員会を中心に「ありがとう



の木」の取組を始めています。6年生が中心となって準備を進め、全校のみんなが友だちへの「ありがとう」を葉や花に書いて木を育てていきます。

お話では、「ありがとう」という言葉には三つの意味があることを伝えました。

一つ目は、「あなたがここにいてくれてうれしい」という気持ち。

二つ目は、「あなたは誰かの役に立っている」ということ。

三つ目は、「友だちのよいところを見つける」ということです。

「ありがとう」と伝えられた人は、「自分は誰かの役に立てた」と感じ、自分を信じる力につながります。また、「ありがとう」と伝えた人も、相手のよさに目を向けることで、やさしい心が育ちま



す。そんな「ありがとう」の積み重ねが、学校全体の安心感を育てていくのです。

お話の後、子どもたちはたくさんの感想を書いてくれました。

○「『ありがとう』と言われると『わたしは役に立てた！』と思える。」

○「校長先生のお話を聞いて、いろいろなことに『ありがとう』を言える自分になりたいと思いました。」



○「『ありがとう』は言った人も言われた人もうれしくなる『最強』の言葉。」「これからは意味を考えながら、もっとたくさんの人に『ありがとう』を伝えたい。」
という力強い感想もありました。

また、「学校中に安心感が広がれば、保護者の人たちも安心して子どもを任せられる学校になると思う。」という6年生の言葉には、学校全体を見つめる頼もしさを感じました。

「ありがとう」は、たった五文字の短い言葉ですが、その一言には相手の存在を認め、自分自身の心も豊かにする大きな力があります。

学校ではこれからも「ありがとうの木」を育てながら、子どもたち一人一人が「自分は大切な存在」「誰かの役に立っている」と実感できる学校づくりを進めてまいります。

ご家庭でも、お子様の頑張りや思いやりのある行動に、「ありがとう」「助かったよ」と言葉にして伝えていただけると幸いです。学校と家庭がともに「ありがとう」の輪を広げ、子どもたちの心の力を育んでいきたいと思っています。